

(別記2)

研究課題	1 イヌワシの生息数維持に向けた保全生態学的研究 (2016-2020)
研究目的・背景	<p>岩手県内で35つがいのイヌワシが確認されてきたが、2000年以降、消失するつがいが増えている。その背景には長年に及ぶ繁殖成功率の低迷があると考えられる。今後もイヌワシの生息数を維持していくために、繁殖率の向上に資する保全方法を明らかにすることが求められる。</p> <p>これまでの研究により、県内の生息状況や生態的特性について解明が進められてきたが、個体の移動分散、遺伝的構造、営巣地不明つがいの存在など、生息数の動向を予測するうえで必要となる事項には、未解明な部分がまだ多い。</p> <p>また、繁殖成績や営巣場所の選択についても、地理・地形的条件や植生、気象要因、個体の年齢、隣接つがいの有無等を考慮して、詳細な分析を進める必要がある。</p> <p>本研究では、こうした課題に取り組むことを通じて、岩手県のイヌワシを維持、存続させるために必要な保全手法を明らかにし、提言を行なうことを目的とする。</p>
研究内容	<ul style="list-style-type: none">・ 繁殖状況モニタリング・ ビデオカメラを用いた繁殖行動解析・ 個体識別による移動分散調査・ 遺伝子サンプルの収集とDNA解析・ 地理情報等を用いた営巣地の分布や繁殖成績の解析
評価結果	<p>○ 総合評価 A (3人)・B (1人)・C (0人)・D (0人)</p> <p>○ 総合意見</p> <ul style="list-style-type: none">・ これまでの成果は十分達成しており、今後二年間で更なる成果が期待できる。・ 全体として、優れた研究を継続しており、さらに継続してほしい。 なお、岩手県だけでは研究発展の限界もあり、環境省等関連機関と連携を深め、更なる発展に向けた工夫をして頂きたい。・ 重要な研究であり、継続してほしい。・ 順調に進行しており、特に問題はない。
センターの対応方針	<p>①研究計画のとおり実施 2一部見直しの上実施 3計画再考 4中止</p> <p>イヌワシは本県の代表的希少野生動物であり、岩手県次期総合計画(案)において、本県の恵まれた自然環境が守られている状況を示す指標として、イヌワシつがい数の維持を設定することが検討されており、イヌワシの保全に繋がる研究は続けていきたい。</p> <p>こうした中で、県内の協力者や大学等との連携により、生息分布の詳細な把握や生息適地の予測を進め、今後、餌場の提供や風力発電との共存などに役立つ成果をあげられるよう取り組んでいきたい。</p> <p>また、県外関係者や環境省との連携も図りつつ、より広域的なスケールで移動分散や遺伝子情報の解析を展開できるよう進めていきたい。</p>